

下松市合流式下水道緊急改善事業アドバイザーミーティング（第1回）議事録

日時：平成21年2月3日（火）13時30分～14時30分

場所：下松市役所 2階 201会議室

委員：佐賀孝徳（独立行政法人国立高等専門学校機構

　　徳山工業高等専門学校 土木建築工学科 教授）

　　宮本和治（下松市都市計画審議会 会長）

　　北山光正（山口県周南健康福祉センター 生活環境課 課長）

　　古谷京一（学校法人徳山教育財団 徳山大学 経済学部 準教授）

事務局：生活環境部 杉岡部長、林次長

　　生活環境部下水道課 永友課長、古木所長

　　福田補佐、瀬来補佐、庄地主査

オブザーバー：（株）オリジナル設計（今川、新原、埜渡）

- ・委嘱状交付
- ・市長挨拶
- ・会長選出
- ・委員紹介
- ・事務局紹介
- ・資料説明

【質疑応答の要旨】

（会長）雨水ポンプの運転制御の具体的方法は。

（事務局）上流域の浸水防除を確保しながら、運転管理水位を上げることにより、南部幹線への管内貯留を考えております。

（会長）具体的には、何立米くらい貯めるようになるのですか。

（事務局）具体的な数値は次回会議においてお示しさせて頂きますが、現時点では、概ね2千トンから3千トン規模の貯留量が必要になってくると考えております。

(会長) 何か施設を新設するようになるのですか。

(事務局) 新設ではなく、既存施設の有効利用という形で対応を考えております。

(副会長) 雨水ポンプは、南部幹線を流れる全体量のどれくらいの量を流しているのか、貯留する場合、どれくらいの余裕があるのですか。

(事務局) 具体的数値は次回お示しさせて頂きますが、今回、合流改善ということで、雨天時においては、南部幹線への管内貯留を考えておりますが、ポンプの排水能力には十分な能力がありますので、これで対応できるものと考えております。

(副会長) 高速濾過システムを使った場合、既存のものと比べ、どの位、濾過速度が速くなるのですか。

(事務局) 現在は、重力沈殿方式であります。今回導入を検討しております高速濾過システムにおいては、 1 m^2 あたり日量1千トン流せる位の能力を考えております。

また、BOD除去率についても 60~70%近く除去できるものであります。

したがいまして、以前のものと比べるとかなり能力が上がるものであります。

(会長) 先行している、周南市、岩国市さんにおいてもこの高速濾過システムの採用を予定しているようですね。

(委員) 晴天時における高級処理水質はどの位ですか。また、BOD規制ですか。

(事務局) BODの年間平均値で、約 $10\text{ mg}/\text{l}$ 程度で放流しております。

(委員) 雨水吐口からの放流水質はどのくらいですか。

(事務局) 雨天時、雨水吐においては $50\sim80\text{ mg}/\text{l}$ となっております。

(委員) ある程度の水量までは、高級処理と簡易処理をされ、ある一定量を超えたたら、雨水吐口に流れていくという形ですね。

(事務局) その通りです。晴天時の処理水量を 1 Q としますとその5倍にあたる 5 Q 分が遮集され処理系統のほうへ取り込みます。そのうち 1 Q 分が高級処

理、残りの 4Q 分が簡易放流という形になっております。この 4Q 分について今回、簡易処理の高度化を行うものです。

(委員) 1Q までは、雨天時であっても高級処理にまわると言うことですね。

(会長) 処理場の処理方式は何ですか。また、処理能力はどの位ですか。

(事務局) 現在、全体の 3 分の 2 にあたる水処理系が整備されておりまして、現有処理能力で言いますと、日最大で 24200 トンの処理能力があります。これに対して、日最大で 2 万トンほど入ってきております。

(会長) 3 次処理という意味での高級処理というわけではないですね。

(事務局) 高度処理は、現在のところ導入しておりません。

(委員) 合流式と分流式の比率は、現状どれくらいになっているのですか。

(事務局) 面積で言いますと、全体計画で 1466ha あり、今回の計画対象区域は 124ha となっております。

(委員) 平成 37 年度までには、全部分流式になるということですか。

(事務局) 本市においては、昭和 46 年以降は全て分流式で整備しております。それ以前に整備した 84ha が合流区域として残っているということです。

(委員) 合流改善を行った以降もこの施設は必要となるのか、このためだけではないということですか。

(事務局) 整備以降も必要となってくるものであります。

(副会長) 具体的な雨水ポンプの制御の仕方について、次回で結構ですので教えて下さい。

(事務局) 了解しました。

(会長) 放流回数の半減回数というのは、どれくらいの見通しを立てているのですか。

(事務局) 下松市の年間の代表降雨でいいますと、99 降雨あります。

このなかで時間雨量 30mm を超える降雨を除いたもので半減ということになりますと、概ね 20 回くらいになると考へております。

- ・事務局からの次回会議日程についての提案
- ・閉会